

現れられた。『なんでもわがわが  
 わずか三行ほどでまとめられ  
 ているのか。不思議に思いなが  
 ら封を開くと  
 には見慣れたアイツの名前。一  
 枚の封筒が置いてあるのに気が  
 付いた。裏面  
 人達と帰宅した。部屋に入るな  
 り机の上に一  
 あの日も同じように一日が終  
 わり違う友  
 ことはなかった。次の日、ま  
 た次の日も。『  
 次の日、学校へ行ってもアイ  
 ツと口をきく  
 振り向けない。ただひたすらに  
 走った。今さら  
 だしこしまった。すぐに後悔し  
 たが、今さら  
 の言葉を無視して。『さに残  
 ろるを向いて走  
 り。『  
 していいから。アイツの『ご  
 めん。『  
 んと思わなかった。初めての出  
 来事に、どう  
 もとは違った。自分でもあんな  
 に怒るな  
 し、珍しくも何ともなかった。た  
 が、今日はいっ  
 アイツとのケニかなんてしよ  
 っちゅうある  
 いこの景色も、どこか寂しげに  
 感じる。『  
 この道を今日は一人で帰る。普  
 段と変わらな  
 アイツとケニカした。いっも  
 は二人で歩  
 く

